

二俣へ出た。あとはクモ沢を下降して、烏川の長い長い帰路へとつく。

(記・

[タイム] 下降開始(12:30)→下降終了(13:15)

ワサビ沢左俣

1986年8月25日

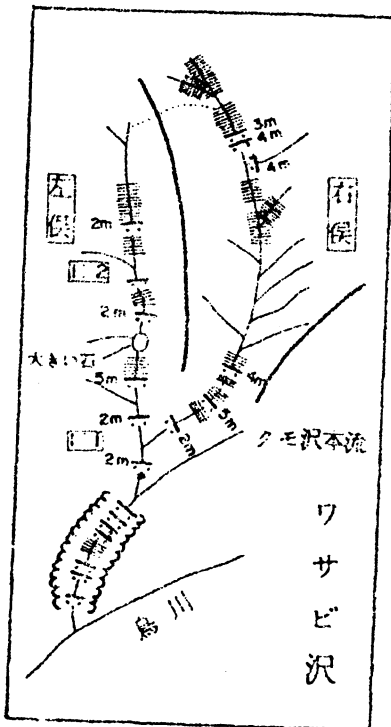
Lj

朝7時30分に、福島を出発。今日は機動力(?)パツグンのバイクである。烏川林道の終点までバイクで行き、そこから烏川を遡行してワサビ沢に入る予定である。

烏川林道は、8月4日の台風10号のツメ跡があちこちにあり、林道には落石がゴロゴロ。沢を渡るところは、流れ出した土石でツタツタ。それでも、バイクはスイスイと通りぬけてゆく。しかし、林道終点の約1km手前で、倒木が林道を塞いで、万事休す。バイクを置いて歩く。

烏川林道終点からは、烏川左岸の歩道を利用して歩くが、途中より道がわからなくなり、本流を遡行する。

途中、本流で釣をしている人に会う。本日の我々の目的を言って先に進めさせてもらおうとすると、「福島登高会」を知っているではないか。そればかりか、この



の摺上川流域を調査していることまで知っており、「魚はどこの沢にいるかね」と聞かれる有様。そんなことで、なんのトラブルもなく、先に進ませてもらう。

烏川本流を歩き始めて1時間40分、もう11時40分になっている。やっとのことでクモ沢出合である。長い長い行程ならぬ沢程であった。

クモ沢出合より、ゴルジュを越して15分。やっとのことで本日の目的地、ワサビ沢出合である。

さっそく遡行開始。2mの滝がかかり、二俣となる。左俣を遡行して右俣を下降することにして、左俣に入る。

滝は2mクラスのもものがポツリポツリであるが、この沢の特徴は、赤茶色から灰色の花崗岩のナメである。このナメは源頭まで続いた。

大きな石が沢をドンと塞いでいる場所を通り、ワサビ沢に入ってから約30分で源頭となる。右俣めざしてヤブこぎ開始。

もう一つ特記すべきことがある。このワサビ沢一帯は、ブナの原生林である。林道より遠く、まだ伐採の手が届いていないのであろう。胸高直径は、どれもこれも1mを楽にこす。森林生態学上は「ブナの極生相」を形成している。そのせいか、下層植生は少なく、ヤブこぎも楽で、なんなく右俣源頭に出ることができた。

(記・

[タイム] ワサビ沢出合(11:55)→二俣(12:00)→遡行終了(12:30)

大深谷沢左俣

1986年6月7日

L

大深谷沢二俣までは、1982年5月23日に、西・橋内パーティが右俣を遡行したときの記録があり、4年たった今も、特に変化はないので、そちらの記録を参照されたい。

二俣より15分ほどで、右岸より10m滝が合流している。その先さらに15分ほど同じく右岸より15m三段滝が合流し、本流の方はここに3mの滝をかける。沢登りは今日が初めての菱沼も、この滝は難なく登れた。

12時20分、源頭部手前の4m滝に出る。この滝は、右岸を楽に直登できるが、菱沼を確保するために、ザイルを出した。

このあとすぐ二俣となって、源頭部を迎える。水量もかなり少なくなる。これより20分ほどで林道に出る。

林道のそばに小滝がかかっているので、林道上部を見に行くが、5分ほどで水は涸れた。

